



Rotary Opens Opportunities

Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：佐藤 章夫 幹事：遠藤 正明

地区目標

「4つのテスト」を実践し ロータリーの価値をたかめよう。

クラブテーマ

Let's Make The Best Better 前へ!

◆点鐘：佐藤 章夫 会長

◆ロータリーソング：蔵王を仰ぐ

◆司会：早川 徹 S.A.A.

◆会場：山形グランドホテル



Yamagata West Rotary

第2885回例会

令和2年8月31日(月)

会長あいさつ

佐藤 章夫 会長



コロナ禍が収束する前に、今度は猛暑が襲来しました。健康に十分気配りされながら、この難局をともに乗り切ってまいりましょう。本日、齋藤ガバナーが山形西ロータリークラブを公式訪問されました。皆さまを心から歓迎申し上げます。

今日は公・共・私についてお話したいと思います。

明治維新で新政府は、明治6年に地租改正条例を交付しております。役人が田んぼにいた農民に「この土地は誰のものか」と尋ねたところ、「上の土は俺のもの、中の土は村のもの、下の土地は国のもの」と答えたそうです。1番上の土地は、自分が祖先から引き継いで、土を肥し、作物を育ててきたのだから、自分のもの。しかしそれができるのは、共同社会たる村の衆がみんなで農道を整備し、灌漑施設を作って、維持してきたから、中の土地は村のもの。その下は誰のものでもない。国のものという意味です。農民の土地に対する心情を的確に伝えています。

水の利用に関しては、河川法第2条第2項に、「河川の流水は私権の目的となることはできない」と明記されております。河川の水は誰のものでもありません。しかし、この河川から村人たちが共同で導水施設を作り、自分の村まで水を引いてくれば、村のものになります。さらに、その水を村の了承のもとに、個々の田んぼに入れて使う分には、農家個々のものとなります。使い終わった水はまた川に流入し、下流で再び公共の水となります。

東日本大震災、そして今時の豪雨災害のときによく使われた言葉に、自助、共助、公助があります。大災害に遭遇したら、まず、自分の身を守れ。落ち着いたら周囲の人間を共同で助けよ。国は災害時の復旧を担うという構図です。これは、災害に限ったことではありません。洋の東西を問わず、天は自ら助くる者を助く、まずは自助努力。助け合いは災害時に限りません。生活保護については、共助より公助のほうが機能しやすい。身よりのないお年寄り、身体不自由な人々にまで、自助を強要することはできません。共助、公助の出番です。

私たちは共存社会に生きてます。それは、公・共・私の棲み分けと、連携で保たれているのです。私たちロータリアンは、職業を通じて、個々に社会貢献をしているのですけれども、クラブの立場では、無償の奉仕で共の分野を豊かに膨らましていく使命を帯びております。共の分野が大きく広く存在することは、その国の健全性と強靱さを裏付けると私は思っております。

ニコニコBOX

〈8月31日〉

齋藤榮助ガバナー、北門一忠ガバナー補佐／素晴らしい活動の1年を祈念して。

佐藤章夫会長、遠藤正明幹事／齋藤榮助ガバナーをお迎えして本日、齋藤ガバナーと北門ガバナー補佐をお迎えし、例会が開催できること、非常に嬉しく思います。本日、よろしくお願ひいたします。

東海林健登さん／ガバナー、ガバナー補佐をお迎えして齋藤ガバナー、北門ガバナー補佐をお迎えし、例会を開催することができましてニコニコします。

鈴木浩司さん／齋藤榮助ガバナーを歓迎して。

遠藤栄次郎さん／齋藤ガバナー来訪を歓迎して山形西ロータリー来訪、ありがとうございます。

中山真一さん／お世話になっております。第2800地区ガバナー、齋藤榮助さんのご来訪を歓迎いたします。なお、本日は不在ですが、地区資金委員長は当事務所の赤城税理士です。

細谷伸夫さん／齋藤榮助ガバナーを歓迎して齋藤榮助ガバナーの公式訪問を歓迎すると共に、我が山形西ロータリークラブのご指導に感謝してニコニコします。齋藤ガバナーにはコロナ禍ではありましたが、2800地区のため、ご尽力くださることをご祈念申し上げます。

武田元裕さん／齋藤ガバナー、ようこそお越し下さいました。ガバナーの責務、全うできるよう、微力ながら応援しております。

遠藤靖彦さん／齋藤ガバナーを迎えて齋藤ガバナーには石油組合、明治大学の校友会、コスモ石油の会と大変お世話になっております。今日は楽しみにしています。

市村清勝さん／1. ガバナー公式訪問を歓迎してコロナ禍の中、ようこそ、山形西ロータリークラブにおいていただきました。齋藤ガバナーのご活躍をお祈りいたします。

2. 福島県一切経山山頂からの絶景昨日は雨を覚悟しての山登りでしたが、途中から雨もやみ、山頂付近では晴れ間も出始めました。山頂から吾妻小富士の火山口を見下ろし、コバルトブルーのカルデラ湖、『魔女の瞳』に見入ってきました。密のない素晴らしい1日でした。

幹事報告

遠藤 正明 幹事

- 遠藤栄次郎会員より米山奨学会のご寄付をいただきました。ありがとうございます。



- FAXにてご案内申し上げましたが、9月14日の芋煮会が10月19日に変更になりました。改めて出欠のご案内をしておりますので、多くのご参加をお願い申し上げます。

ガバナー補佐挨拶



北門 一忠 氏

ガバナー補佐

こんにちは。ガバナー補佐の北門であります。

私が本当に心から言いたいのは、今年のクラブ運営は、前代にないCOVID-19という未知の種族、彼らとの闘いであります。しかし、クラブ運営に関しましては、勇気を持って会長、幹事及び理事会に、バックアップをしていただいて、各クラブにクラブ運営は任されておりますので、とりあえず私の言葉から言うと、本当に同調することなく、西クラブは西クラブの、独自のクラブ運営を心から願っております。

会長、幹事、この1年間大変だと思いますが、周りのクラブがどういう運営をしているかということを見ながら、流されることなく、西ロータリークラブの特徴を生かしていただいて、勇気を持ってクラブ運営をお願いしたいと思います。

ガバナー卓話



齋藤 栄助 氏

国際ロータリー第2800地区ガバナー

皆さん、こんにちは。今年2800地区のガバナーとして、1年間お世話になります齋藤栄助でございます。よろしくお願いいたします。

先ほど会長、幹事さんと打ち合わせさせていただきました。その時に皆さま方の年次計画書も見させていただきました。中に「西ロータリーの概況」というのがございました。これを見て、とにかくすごいなと思いました。過去4代ガバナーを輩出されていらっしゃるし、本当に素晴らしい人数でもいらっしゃいます。いろんな意味で2800地区を先導してくださっているロータリークラブさん、本当に御礼を申し上げたいと存じます。

早速お話をさせていただきますが、去る8月19日にクナーCRI会長から皆さま方にメッセージが来ておりました。「新型コロナによって、ロータリーはこれまで想像もしなかった新たな課題に直面しています。しかし、どのような課題にもそれを上回るほどの大きな機会が存在するものです。『ロータリーは機会の扉を開く』のテーマは、さらに大きな重要性を帯びています」というメッセージが届きました。

6月から多くのクラブ例会が再開し、私は本当に喜びと嬉しさを感じました。やはり例会あつてのロータリーと、気持ちを一層と強くしたところでございます。人が集い、信頼する人と付き合う喜びは人間らしさの1つと言われております。例会再開がまさにそのことを証明したと思っております。今年、私から皆さま方に、定款・細則の改定をお願いいたしました。これは3年ごとに規定審議会が行われ、そしてその中で出てきたことを定款に反映させるということでもございました。特に今年は大きなことが2つほどその中に含まれていたように思います。

1つは、ローターアクトの問題でございます。先日、山形の5つのクラブでローターアクトクラブを立ち上げていただきました。このローターアクトは、今までは提唱クラブの下部組織のような形で位置づけをされておりましたけども、今後はわれわれロータリアンと同じような本場に大きな柱として、独立した、そして信頼できるロータリークラブとしてもっていきたいというのがRIの方針でございます。

それともう1つは、定款・細則の変更が結構大幅になってきたということもございます。

ローターアクトクラブ、これを独立させていくというのは、口で言うのは簡単ですが、難しい問題が数多く出てきてます。彼らを独立したら、経済的にもそういう形でやっていくためには相当の年数がかかるのではなからうかと考えているところです。既に地区から毎年100万円弱の資金を彼らに運動資金としてお渡ししておりますし、提唱クラブのほうからも毎年ながしかのクラブ活動費をお渡ししているのではなからうかと思っております。これらがすべて独立していくなってくれば、なかなか大変だろうと思っております。

また、日本にはJCという本場に大きな組織がございますので、そこと活動が相当だぶってくるのではないかとと思いますが、RIの方針とすれば、こういう方針でいくんだということをご理解だけいただければなと思っております。

それから今までの定款の中に、どうしてもこうしなければならぬ、「ねばならぬ」という項目が結構あったように私は思っております。それが自由裁量権が大変大きくなりまして、細則で決めればよいという項目が増えてまいりました。私が入って33年になるわけですが、その頃の先輩の皆さま方から教えられた「こうあらねばならぬ」というのから相当性格が変わってきてるのではなからうかと思えますし、私がガバナーとして皆さまにお話することも、そういう問題から離れてRIの方針を皆さま方にお伝えし、あとはクラブ自らの方向をお決めいただければなと思っております。

新RI会長のホルガー・クナークさんはドイツ出身の64歳の方です。彼は現状認識、3つほど挙げられました。

1つ目、ロータリーは全世界で大きな存在であることを自覚してください。2つ目、世界で環境や世代、言語や文化の違う中でもロータリーの持つ多様性こそが素晴らしいことです。3つ目、私たちロータリアンは固い友情で繋がりが、4つのテストを共有する価値観のもとで信じ、活動しております。

そして今年度のテーマは、奉仕やその他の行動の機会ができる大きな扉を開いてください、とおっしゃいました。その機会とは何か。6項目ほど述べていらっしゃいます。

1つ目、奉仕プロジェクトを実施し、やり遂げる機会を与えてくれます。2つ目、リーダーシップの機会を与えてくれます。3つ目、クラブに入会するだけでなく、無限に開かれた機会へ招待をしてくれます。4つ目、ポリオのような大きなプロジェクトから地域社会のささやかなプロジェクトまで、奉仕する機会を開いてくれます。5つ目、世界中の友人たちとともに、より豊かで意義ある人生の挑戦する機会を開いてくれます。6つ目、私たちすべての活動がどこかで誰かのために必ずや役立つ機会を開いてくれます。

そして会員自身や受益者の人生をより豊かにするため未知を開くのがロータリーであるというふうに述べていらっしゃいます。今年度のテーマは『ロータリーは機会の扉を開く』となさいました。

次に、地区目標についてお話をいたします。私は今年ちょうど75歳になります。戦争の足跡が残る時代に育ってまいりました。そんな時代の人たちは、再び戦争のない社会を目指し、学んだのが民主的な国作りだったというふうに思います。その中心は自由と平等、人権と法の支配であります。戦後、わが国は曲がりなりにもその考えは確実に根付き、自由、平等、人権、法の支配は、それがごく普通で当然のことと認めてまいりました。

しかし今の世界を見ますと、必ずしもそのようには動いておりません。欧米の民主主義も、一時の輝きを失っているように私は感じております。さらに、近隣の国々では言論の自由、人権の擁護や多国間での寛容の精神が後退し、平和へ導く価値観がバラバラになり始めていることに危機感を抱いております。そして私たちロータリーが全世界で奉仕活動をしている人道的な諸問題の多くは、まさに戦争によることは皆さまよくご存じのとおりでございます。

また、ここに来て残念なことですが、わが国でもこのコロナで平時では表れない差別や偏見、分断が発生しはじめてまいりました。このような状況だからこそ、せめて私たちロータリアンは4つのテストを心に留めていただきたいと思います。

ロータリーは価値観を共有するコミュニティです。真実、公平、好意と友情、みんなのためは人類の普遍的な倫理であって、いかなる場合もいかなる時もすべての行動に適用する価値観であり、ひいては平和を希求し得る最も礎

に当たる言葉であり行動であると思います。それで私は今年のテーマを『4つのテスト』を實踐し、ロータリーの価値をたかめよう」というふうにさせていただきました。

さて、方針を申し上げさせていただきましたが、重点項目を4つほど挙げさせていただきます。1つ目は、職業奉仕はロータリー独自の思想哲学で、誕生の歴史を紐解き、他の奉仕団体との違いを学習してください。貴クラブは伝統と歴史がございますので、もう1度復習していただければと思ったところです。

2つ目は、会員拡大と退会の防止。これはロータリーができてから毎年出てくる言葉でございます。今現在私はこれを逆にしたいという感覚です。退会の防止をし、そして会員の拡大をしていただきたいと思っております。7月31日現在の2800地区は、現在1,540名でございます。何とか1,600名の台までと思っております。

3つ目は、クラブ例会のあり方の学習です。多様化した中での例会のあるべき姿を学び考えてください、ということでございます。今皆さま方が行われているこのロータリークラブの形態は、従来型ロータリークラブというものでございます。その他7つほどあります。先ほど言いましたローターアクトクラブも入ってます。それから衛星クラブ、Eクラブとパスポートクラブ。それから会社の中にお作りになる法人クラブがあります。学友中心、つまり米山だとか交換学生のOG、OBで作る学友クラブというのがあります。そして活動分野に基づくクラブというのがございます。特定の問題に取り組むためにつながりを求める人だけの集まりのクラブ、だということでございます。

私が33年前に入会させていただいた時に、ロータリークラブとはこうあるべきだと諸先輩からいろいろお教えいただきました。そういうことを考えますと、一体ロータリークラブとは何ぞやという形にもなってまいりました。既に数年前から、月4回が2回になり、それから職業分類がなくなり、奥様も入れるという、どんどん緩くなってまいりました。しかし、今世界の動きを見ますと、このようにやらざるを得ないような動きで回ってるのではなからうかということです。だからといって、皆さま方が迎合する必要はない。自分のクラブはこうありたいと思うのはそのままぜひお続けいただきたいと思っております。私もこれからもロータリーにいますが、こういうクラブでこそ私は活動していきたいと思っております。が、そのような動きも全世界で起こっていることをご承知おきいただきたいと思っております。

来年RYLA研究会山形大会、全国大会が開かれる予定でございましたが、どうなるか分かりませんので、決まりましたならば協力いただきたいと思っております。本来ですと3月下旬、寒河江で開く予定でございました。

次に、このような状況から当初の計画、変更せざるを得なくなったことをいくつか皆さま方にお伝えしたいと思います。まず地区大会の変更でございます。最初10月の中旬に開く予定だったのですが、来年の6月4、5日、米沢で開きたいと思っております。安全安心をモットーに開きたいと思っております。

次に、インターアクトの中止でございます。現在の高校はカリキュラムが大変遅れておりますので、地区でのインターアクトの活動は中止いたしました。

地区ダイナの活動、本来9月末に行う予定でしたが、2020年は中止させていただきます。何とか5月の末頃にできないものかと言っているいろいろな計画をすることだけ、ちょっと覚えておいていただければと思います。

青少年交換学生の事業は今年中止いたします。このような世界の情勢でございますので中止いたしました。今年行く予定であった高校生の4人のうち3人までは2年生で

ございましたので、来年本人たちが希望すれば、それぞれの国に行ってもらいたいと思っております。

今年ちょうど地区が出て30周年になりますが、その間1度も記念誌を作っていないということで、今年は何とか記念誌を作りたいと思っております。ちょうど来年の今頃発刊するような、そのような段取りをしているところでございます。

次に、皆さま方に今日、ガイガンデッカーの本をお渡しをいたしました。これは鈴木一作パストガバナーが大変敬愛してやまない、ロータリー115年の歴史の中で、思想的に大変重要な位置を占めた方のお1人でございます。ポール・ハリスとかアーサー・シェルドンだとか、ハーバート・J・テラーだとか、いくつかのうちのお1人だということをお読みいただければ幸いですと思っております。

それから日本ロータリー100周年、皆さんと一緒にお祝いをする予定でしたが、その100周年記念式典は今年中止となりました。

普段通り活動していただきたいこともいくつかあります。1つは米山奨学生。これは大学生でございますので、肅々と活動していただきたいと思っております。次、奉仕プロジェクト。こちらの補助金プロジェクトでは、猫の断種だとか、いろいろとなさっていると聞きしています。

次に、ロータリー財団、それから米山奨学会のご協力、例年ですが、ひとつお願いしたいと思っております。財団の中でも、特に、ポリオの問題でございますが、まだまだ完全に地球上からなくすのは難しいようでございます。7月21日現在ですが、パキスタンに58名、アフガニスタンに29名、まだ罹患者がいるということでございます。ただ先日、WHOから、アフリカ大陸の野生株におけるポリオは絶滅したということが、新聞に大きく載っておりました。それだけでもうれしいかなと思っておりますが、野生株についてはこうやって何とかなってもその後にも、まだしなければいけないことが数多くあるといえます。日本の場合ですと注射

をして、ポリオにはかからないようにしていますが、全世界ではまだまだそんなことできませんので、これからの息の長い活動が必要ではと思っております。

それから米山奨学生。山形県はほんとに留学生の数が一番少ないというのが、去年の山新に出ておりました。何とか皆さま方と協力をして多くの留学生を呼んでいきたい、と思っております。

さて、最後になりましたが、私は皆さまの健康と安全を維持していただき、そして会社を守っていただくことが一番大事だと思っております。その上で、できるならばですが、もし経済的に厳しい方がいらっしゃるならば、できる範囲内でご協力をいただき、それからクラブ定款・細則を上手に見直しをいただき、再びその人と共に活動できる日が来るまで温かく見守っていただければなと思っております。一度糸が切れますと、再び紡ぐのが難しくなります。わずかでもつながっていただけると思っております。クラブ定款細則の中に休会というシステムはございませんが、出席義務の免除ということがございますので、上手に運用していただければ、そのような形もできるのではと考えてるところです。

また、クラブは楽しくなければ長続きいたしません。楽しみ方はそれぞれにおいて皆さま方違うだろうと思っております。例会に来ることが楽しい、中には奉仕活動をしたい、それから懇親会が好きだと。仲間と一緒にゴルフ、あるいは山登りするのが好きだという方もいらっしゃいますでしょう。その根底に流れるのは、それも含めてやっぱり楽しい会だということが一番大事だろうと思っております。

今後とも楽しい会を1年間、佐藤会長を中心として、ひとつ進めていただければなというふう感じてるところでございます。山形西ロータリークラブが1年間素晴らしい活動をなさいますことをご祈念申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。今日はありがとうございました。



本日出席 (8 / 31)	会員総数	出席会員数
	97名	72名